



4. ヘルスコミュニケーション学関連学会賞 2022年度優秀書籍賞受賞者コメント

奥原剛

東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学分野

受賞

実践 行動変容のためのヘルスコミュニケーション—人を動かす10原則、大修館書店 2021年

この度は優秀書籍賞を賜り誠にありがとうございました。

人の仕事の動機には、認知的動機と感情的動機があります。認知的動機とは、「この仕事が患者さんや住民のために重要だから」「貢献できるから」といった理知的な動機です。一方の感情的動機とは、「この仕事が面白いから、楽しいから、反響があると嬉しいから」といった感情面の動機です。

私は疑り深い人間ですので、「認知的動機は嘘をつく」と思っています。「人の役に立ちたい」などと言えば、「立派な人だなあ」と思ってもらえるので、人は周囲から承認されやすい認知的動機を優先して口にすると思います。

一方で、私は「感情的動機は嘘をつけない」と考えています。周囲に合わせて、その場しのぎで楽しいふりをすることはできても、楽しいふりをし続ける、つまり感情に嘘をつき続けることはできないと思います。

また、人は「重要だから」といった認知的動機よりも、「楽しいから、気持ちがいいから」といった感情的動機で行動することの方が多し、感情的動機に基づく行動の方が長続きするとも思います。

この度、賞を授与いただいた拙著『実践 行動変容のためのヘルスコミュニケーション』は、行政や保険者、医療機関等の保健医療従事者の方々を対象に、住民・患者の方々の行動変容を促すコミュニケーションのポイントを解説した参考書です。このような本をみずから手に取ってくださる読者の方々は、認知的動機を既にお持ちでいらっしゃると思います。

したがって、私がこの拙著で試みようとしたのは、読者の方々の感情的動機に訴えることでした。つまり、「自分たちでコミュニケーションの仕事を考えて創り上げることが面白い！楽しい！そして反響があったら嬉しい！」と、拙著をきっかけにして読者に感じてもらいたかったのです。

読者に「面白い！楽しい！」という感情の萌芽を感じていただくために、私は拙著に数々のギャグを盛り込みました。私自身の禿げあがったおでこの写真も載せました。このような奇書に賞を授与してくださったヘルスコミュニケーション学関連学会機構の懐の深さに感謝申し上げます。

私がこの拙著を書くことができたのは、私に講演・研修を依頼してくださった健康保険組合や自治体の方々のおかげです。研修の受講者の方々の熱意、仕事に対する姿勢、優れた実践から、私は多くを学ばせていただきました。感謝申し上げます。拙著への実践事例の掲載を快諾くださった皆様にも感謝申し上げます。また、拙著の企画・編集をしてくださった大修館書店の編集者・高山真紀さんに感謝申し上げます。高山さんにメールで受賞のご報告をしたところ、「この書籍を制作していて、実感したことの1つが、やっぱり『楽しい』ということはとても大事だということでした」とのご返信をいただきました。認知的動機だけでなく感情的動機を共有できる編集者と、この本を創り上げることができたことを、幸運に思います。

多くの方々とのご縁の中で、自分の仕事をつくっていただいているのだと、つくづく思います。

ありがとうございました。